

FOP の足部変形に関する研究

研究分担者 川端 秀彦 大阪府立母子保健総合医療センター整形外科主任部長

研究要旨 母趾の短縮変形, 特に外反母趾は FOP に特徴的な所見とされているが, その詳細を形態学的にみた報告はない. そのため本研究では FOP の足部変形の特徴の抽出を試みた. 結果, FOP における外反母趾は一般集団で見られる外反母趾とは異なり, 基節骨の形態異常が原因であること, 必ずしも外反母趾が FOP に必発ではないことが明らかになった.

A. 研究目的

母趾の短縮変形は FOP に特徴的な所見とされているが, その詳細を形態学的にみた報告はない. そのため本研究では今後 ADL・QOL との関係や phenotype と genotype の関連を検討する基礎データとして, FOP の足部変形の特徴の抽出を試みた.

B. 研究方法

入手可能であった 5 例の足部正面 X 線写真を元に, 以下の項目を計測した.

1. 母趾短縮の程度
2. 外反母趾の程度
3. 同一個体における左右差
4. 異所性化骨の有無
5. 第 2 趾以下の変形の有無
(倫理面での配慮)

使用した画像は総て匿名で個人を特定できないものである.

C. 研究結果

1. 母趾短縮を 4 例 8 足 80% に認めた. 短縮の主たる要因は基節骨にあった. 中足骨の短縮は認めなかった.

2. 外反母趾がない症例が 1 例 1 足あったが, その足では MTP 関節の骨性癒合を認めた. 1 例 2 足では外反はごく軽度であった. これらを

除く 4 例 7 足の外反母趾の中で 6 足の外反母趾の原因は基節骨のデルタ骨変形であった.

3. 同一個体で左右差があった例は 1 例のみであった.

4. 異所性化骨は 27 歳例で両側に認められたが, より若い他の 4 例では生じていなかった.

5. 第 2 趾以下に異常を認めたものは 1 例 1 足のみであった.

D. 考察

遺伝的に均一な疾患である FOP であるが, 足部・母趾の変形は通常見られる外反母趾のような単純な表現形ではなかった. さらに加齢に伴う変化も加わって同一個体でも左右が出現し多彩なものであった. 外反母趾の主たる要因は基節骨にあり, その成因や治療を考えるとときにこの点は重要であると思われた.

E. 結論

母趾の短縮変形, 特に外反母趾は FOP に特徴的な所見とされているが, 一般に見られる外反母趾とは成因が異なっている.

F. 研究発表

未発表

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし